



# 新鶴見小

江ヶ崎町2番1号 ☎583-8915

## 「困る」と向き合う

校長 田名部 和美

「何かお手伝いすることない？」

随分昔のことになりますが、まだ小学校に入る前の娘にこう言われ、「こんなことを言えるくらい大きくなったんだな」という喜びと、「気持ちは嬉しいけど、今は忙しくて自分でやった方が早いのかな」という戸惑いとで、親としてどうしていきべきか悩んだことがあります。娘はすっかり大きくなりましたが、現在も様々なところで悩みながら子育てをしています。「子どもが困らないように」という思いから、何回も繰り返し同じことを確認したり、子どもが自ら挑戦しようとしていることに、良かれと思って手を出したり…。もしかすると、子ども自身が困って自分で解決しようとする学びの機会を奪ってしまっていたのかもしれない。



ある新聞で「発問」と「質問」の違いは何か、という記事を読みました。「発問」は問いを発する人が答えを知っているが、「質問」は答えを知らないということです。そしてその「質問」をする力を育てることがこれからの課題であると述べられていました。これを読んで私は、与えられた発問に答えるだけではなく、「これはどうなのか?」「この場合も同じか?」と、自ら課題(質問や疑問)を見付けて解決しようとする力を育てることが大切なのだと解釈しました。

『算数って、おもしろい!』という主題のもと、今年度も算数科を中心として授業改善に向けた研究を進めてまいります。子どもたちが「おもしろい!」と感じることの背景には、「知りたい」「考えたい」「わかるようになりたい」という課題解決に向けた思いがあります。「この問題、もっと簡単に解く方法はないかな?」「昨日学習したことと、どこが違うんだろう?」学習の中で自ら『問い』を見付け、知恵を絞って考えたり、友達と協力して解決したり…。途中で行き詰まり、困ることもあるでしょう。しかしその困ったときこそが、思考が最も活性化するチャンスです。自分たちの力で「わかった!」という瞬間にたどり着くことは、「おもしろい!」と次の学びへの意欲へとつながっていきます。子どもたちが困ったことに向き合い、それを解決する喜びやおもしろさを感じられる授業をめざし、自ら学び進む子を育てていきたいと考えています。

